

船橋の海・魅力シリーズ4回目は、船橋港に平成22年(2010)より係留されている、元海上自衛隊の破冰船 南極観測船の三代目「しらせ」の初代「しらせ・5002」のご案内です。

### 「南極観測船・しらせの任務」

南極観測は、昭和31年(1956)から南極観測船の「宗谷」で南極へ向かい、昭和基地を開設、以降基地を増設し気象観測や電離層観測等々の研究観測を行ってきました。

南極観測船は初代の「宗谷」二代目「ふじ」そして三代目「しらせ」と変わり、三代目の「しらせ」の初代「しらせ・5002」が、昭和58年(1983)より平成20年(2008)4月まで南極への航行歴25回と気象学、地学等様々な学問の発展に貢献し、任務を終えました。

### 「船橋港に係留された背景」

退役後スクラップになるところ、天気予報の「(株)ウエザーニューズ」に買い取られ補修後、平成22年(2010)3月より船橋港に係留されています。

管理は一般財団法人 WNI 気象文化創造センターのもと、「しらせ」から「SHIRASE」に船名を変え第2の船出として、当初は観測船の観測研究成果発表会や見学会等に活用されていました。

### 「しらせ 5002 の仕様」

総トン数11,600トン、全長134m、全幅28m、深さ14.5m、喫水9.2mと観測船としては大きな船です。(現在の二代目「しらせ 5003」は、総トン数12,500トンと一回り大きい)

### 「SHIRASE 5002 の一般公開」

一時期船橋市とサポポビルが週2回程見学会を実施していましたが、現在は、WNI 気象文化創造センターが、週2~4日見学会を実施しており船内を見学することが出来ます。客船と違い自衛隊の艦船のため、通路は狭く階段は急で見学は健脚者向きとなりますが、私が6年前、特に疲れることなく見学出来ましたので、通常の脚力があれば見学可能かと思えます。

是非南極観測船の体験方、見学されては如何でしょうか。

(写真提供:①街歩き仲間 井原正明氏)「47 我が街 船橋を歩く に続く」(2024-9-1寄稿)



① 船橋港に係留中の「SHIRASE 5002」



②「SHIRASE 5002」の操舵室、実に見晴らしがよい